

当別文芸の会だより NO.29

H24・8/28 発行 (連絡先・河地良一 TEL23-2103)

北の大地・旭川周遊「文学散歩」盛会でした

8月25日(土)、JR石狩当別駅南口を8:10に出発。国道275号線経由で旭川に向かう。当日は朝から好天に恵まれ、40人乗りのバスに募集30名を超える35名(メンバー17名、一般18名)の参加でした。下段モーターズから缶ジュースの差し入れがあり、皆さん感激。また、他の事業で参加出来なかった大口さんが、袋詰めのおやつを用意してくれて見送ってくれる。

バスの中は事務局長の堀江さんの司会で、竹原さんが世話係、村木さん、後藤さんが会計係、山岸さんが集合写真係を担当。また、旭川ですごしたことのある東前さんに「井上文学」「三浦文学」の見どころなどをガイドしていただく。初めての出会いの人も多いのに、車中はいつの間にか和気あいあい。途中、雨竜の「道の駅」で小休憩。もうこの頃になると夏の日差しがいっぱい。

「井上靖記念館」には10:45に到着。早速、ロビーの椅子席(午後のロビーコンサート用)で館の説明をいただく。父は旭川師団の軍医。靖は僅か1年で旭川を離れるが、この旭川が自分の原点ということらしい。新聞記者を経て作家になるが、歴史物や人間の生き方などの膨大な作品を世に発表する。

東京都の世田谷から今年の春に移築した書斎や応接間の仕事場の雰囲気や、数千冊の書籍は圧巻。参加した皆さんも、井上靖の創作意欲に圧倒され、井上文学に心を奪われる余韻を残しての見学となったようです。

そして、お昼はお待ちかねの「大雪乃蔵レストラン」で遊味弁当(1200円)をいただく。特別に椅子席の部屋を用意してくれていて、道産の食材を生かしたこだわりに参加した皆さんも満足。人の手からオートメーションに切り替えた酒蔵の説明もいただき、試飲の飲み比べに気をよくして財布の紐もゆるみ、吟醸酒・純米酒・リキュール酒も、おみやげに相当売れたようでした。

午後は市内神楽の「外国樹種見本林」のそばにある「三浦綾子記念文学館」(平成10年オープン)を見学する。熱心な三浦文学の読者の寄付金によって建てられ、翌11年、77歳まで病魔と闘いながら、夫の三浦光世さんの口述筆記で膨大な作品を残して召天。参加したみなさんも改めて夫婦愛に感動。

思い出の数々を胸に14:30に旭川を離れ帰路につく。17:00に当別駅北口に到着。たくさんの出会いと北の大地に息づく文化の香りに触れる一日になったことを感謝して、楽しく過ごせた「文学散歩」の報告とさせていただきます。

次回9月15日(土)は「文芸セミナー」です(一般参加歓迎)
ふれあい倉庫(13:30)北海道開拓に関する講演です(参加費500円・当日)